

2016 年度

聖学院大学

人間福祉スーパービジョンセンター

年次報告書

聖学院大学総合研究所

はじめに

2017年2月4日、第19回ピア・スーパービジョンが、4号館4階4402教室で開催された。特別研究期間を終えて数日前に帰国したばかりの相川章子先生がご講演をされた。

ふり返ってみると、2008年3月1日に、「聖学院大学 人間福祉スーパービジョンセンター」発足を、埼京線北与野駅前にあった「新都心ビジネス交流プラザ 聖学院大学教室」で開催して以来、9年の年月が経過した。

当時、「ソーシャルワーク」の現場で働く本学の卒業生から、個人的に多くの相談を受けていた相川章子先生から、卒業生が大学を訪れ、遠慮なく相談できるような場を作りたいと言う熱心なご要望がだされた。幸い、本学にはこの分野の先達である柏木昭先生をはじめ、牛津信忠先生、さらに助川征雄先生、田村綾子先生も本学教員として加わった。さらに、非常勤講師として本学の教育にご支援いただいた、大野和男先生、行實志都子先生、廣江仁先生などの先生方も、スーパーバイザーとして、あるいは講演者などとしてご支援いただいている。

本センターの記録は、年度毎の冊子として、あるいは、聖学院大学総合研究所紀要（例えば2014年No. 59, P. 120-129, 2012, 2013, 2014の報告）、同NEWSLETTER（Vol. 26, No. 1, 2015年度年次報告）などに収録されている。早々に、そのリストを作成しようと思ひ、資料を集めていたが、やはり、引っ越しの混乱によって、一部は手元に見当たらない。機会があれば、その整理もできればと思っている。

創立以来、事務局研究支援課スタッフの皆様には、多くの業務の中で、SVCの運営に、多くのご支援をいただいていることを、特に感謝申し上げたい。

2017年3月

聖学院大学 人間福祉スーパービジョンセンター長  
中村 馨男

## 目次

I. 事業概要	3
1) 目的	3
2) 実施体制	3
3) プログラム	3
4) 報告書様式	4
II. 事業実績	5
1) スーパービジョンセンター委員会	5
2) スーパービジョン事業	6
(1) 聖学院大学グループ・スーパービジョン	6
(2) スーパーバイザー支援制度グループ版	6
(3) その他グループ・スーパービジョン	7
(4) 個別スーパービジョン	8
(5) スーパーバイザー支援制度	8
(6) ピア・スーパービジョン	9
III. 2016年度予算	10
IV. 決算（2017年3月31日）	10
資料1 ー委員会記録	11
資料2 ーグループ・スーパービジョンへのお誘い	18
資料3 ー柏木サロン（スーパーバイザー支援制度グループ版）全体を通しての構成員の感想	20
資料4 ーピア・スーパービジョンプログラムと報告	23

## I. 事業概要

### 1) 目的

社会福祉の現場では、日々、さまざまな戸惑い、失敗、ゆれに直面することは少なくない。その結果、不安を抱えて仕事を続けることになり、孤立する人、未来を描けない人も少なくない。これらの壁を乗り越え、燃え尽きない(バーンアウトしない)ための方法として、「スーパービジョン」がある。スーパービジョンとは、スーパーバイザー(熟練したソーシャルワーカー\*)が、スーパーバイジー(経験の浅いソーシャルワーカー)に対し、その人の能力が最大限に引き出され、活用されるように支援するものである。具体的には、困難状況や事例に対する関わり方、不安や戸惑いに耳を傾け、受容し、有効なアドバイスをするものである。

### 2) 実施体制

＜スーパービジョンセンター委員＞

センター長：中村磐男 聖学院大学人間福祉学部特任教授  
委員 長：牛津信忠 聖学院大学大学院人間福祉研究科客員教授  
委員：柏木昭、助川征雄、相川章子、田村綾子、木下大生

### 3) プログラム

- 個別スーパービジョン  
スーパーバイザーによる個別のスーパービジョン(原則毎月1回程度)
- グループ・スーパービジョン ※2016年度は開催定員に満たず中止となった。  
スーパーバイザーによるグループ・スーパービジョン(毎月1回)
- 研修交流会 ピア・スーパービジョン(年2回開催)  
主にスーパービジョンに関する実践理論の勉強や経験交流の場を提供する研修会
- スーパーバイザー支援制度、同グループ版  
すでにスーパービジョンを行っている人々をサポートする制度

＜場 所＞ 聖学院大学 他

＜スーパーバイザー＞

柏木 昭	聖学院大学名誉教授、聖学院大学総合研究所名誉教授、社団法人日本精神保健福祉士協会名誉会長、聖学院大学人間福祉スーパービジョンセンター顧問
助川征雄	聖学院大学大学院人間福祉研究科客員教授、精神保健福祉士
相川章子	聖学院大学人間福祉学部人間福祉学科教授、精神保健福祉士
田村綾子	聖学院大学人間福祉学部人間福祉学科教授、公益社団法人日本精神保健福祉士協会副会長・認定スーパーバイザー、精神保健福祉士、社会福祉士
木下大生	聖学院大学人間福祉学部人間福祉学科准教授、社会福祉士
大野和男	NPO 法人精神障害者のあすの福祉をよくする三浦市民の会びあ三浦理事長、社団法人日本精神保健福祉士協会相談役、元聖学院大学非常勤講師、社会福祉士、精神保健福祉士
行實志都子	神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部社会福祉学科准教授、元聖学院大学非常勤講師、社会福祉士、精神保健福祉士
廣江 仁	社会福祉法人養和会 障害福祉サービス事業所あんず・あぶりこ施設長、元聖学院大学非常勤講師、精神保健福祉士

(2016年度現在)

\* 熟練したスーパーバイザーとは、(社)日本精神保健福祉士協会認定スーパーバイザーとして精神保健福祉士国家資格を有する者などを言う。

4) 報告書様式

聖学院総合研究所事務室宛 (FAX 048-781-0421)

聖学院大学 人間福祉スーパービジョンセンター

実 施 報 告 書

年 月 日

スーパーバイザー氏名			
スーパーバイジー氏名		(GSV 記入)	人
実施スーパービジョン	<input type="checkbox"/> 個別スーパービジョン		
	<input type="checkbox"/> グループ・スーパービジョン		
	<input type="checkbox"/> スーパービジョン支援制度		
実施年月日	年 月 日 ( )		
実施時間	AM PM	時 分 ~	時 分
実施場所	① 聖学院大学 (教室名 )		
	②		
	③		
	④ その他 ( )		
事務局への要望			
質問			
その他			
相談料	金額	(支払方法)	会計担当
			事務担当

## II. 事業実績

### 1) スーパービジョンセンター委員会

第1回委員会：5月25日（水）11:30-12:30

場 所：4号館4405室

出席者：柏木昭、中村磐男、牛津信忠、助川征雄、田村綾子、相川章子、木下大生

事務局：木下元、辻本修、小野逸穂(記録)

第2回委員会：7月27日（水）11:30-12:30

場 所：4号館4405室

出席者：柏木昭、中村磐男、牛津信忠、助川征雄、相川章子

欠席者：田村綾子、木下大生

事務局：木下元、辻本修、小野逸穂(記録)

第3回委員会：10月19日（水）11:30-12:30

場 所：4号館4405室

出席者：柏木昭、中村磐男、牛津信忠、助川征雄、木下大生

欠席者：田村綾子、相川章子（特別研究期間）

事務局：木下元、辻本修、小野逸穂(記録)

第4回委員会：1月25日（水）11:30-12:30

場 所：4号館4405室

出席者：柏木昭、中村磐男、牛津信忠、助川征雄、田村綾子、木下大生

欠席者：相川章子（特別研究期間）

事務局：木下元、辻本修、小野逸穂(記録)

第5回委員会：2月15日（水）11:30-12:30

場 所：4号館4405室

出席者：柏木昭、中村磐男、牛津信忠、助川征雄、相川章子、木下大生

欠席者：田村綾子

事務局：木下元、辻本修、小野逸穂(記録)

各回の内容については、後ページ【資料1】内に掲載する。

## 2) スーパービジョン事業

### (1) 聖学院大学グループ・スーパービジョン

(4号館 4405 教室 第4水曜日 18:30~20:30)

6月より予定し参加者を募集していたが、開催定員に満たず中止となった。

案内チラシは、後ページ【資料2】内に掲載する。

### (2) スーパーバイザー支援制度グループ版

<柏木 昭>

○横浜市戸塚区 男女共同参画センター横浜 通称“柏木サロン” 原則第4火曜日

総 括

#### ①スーパーバイザー支援制度実施概要

神奈川県内の日本精神保健福祉士協会認定スーパーバイザー (SVR) の有志がスーパービジョンの充実を図り、年間数回のグループスーパービジョン (GSV) を実施し、「ワーカー・クライアント関係」におけるソーシャルワーカーとしての自己点検を目的としたグループ討議を行ってきた。筆者は 2015 年度より、本研究所企画のスーパーバイザー支援制度により、本グループの支援に当たった。2016 年度はその第2クールである。

#### ②スーパーバイザー支援制度グループ参加者

氏名	性別	職場
A	F	精神科単科病院
B	M	精神科クリニック
C	F	地域活動支援センター施設長
D	F	精神科クリニック
E	M	精神科併設一般科病院
F	F	市役所高齢者支援課 福祉士事務所長

#### ③実施期日

- 第1回 2016/08/30 台風10号来襲のため中止
- 第2回 2016/09/27 オリエンテーションと GSV 契約
- 第3回 2016/10/18 報告者 B 主題「等身大の自分で向き合う」
- 第4回 2016/11/15 報告者 D 主題「関係性が膠着状態の未治療患者に対する PSW の関わり方」
- 第5回 2016/12/20 報告者 E 主題「個性が強い副主任への指導に悩む日々」～成長を信じて～
- 第6回 2017/01/17 報告者 A 主題「若手 PSW に伝えたいこと」～それぞれの課題を超えて必要になる覚悟～
- 第7回 2017/02/21 報告者 F 主題「独立型ソーシャルワーカーは社会的孤立の状況に手が届くのか?～司法領域における入口支援の実践を通して～」
- 第8回 2017/03/21 報告者 C 主題「本人の気持ちを尊重する事」
- 第9回 2017/03/28 総括

#### ④方法

19:00 から 19:30 グループ構成員は持ち回りで、担当ケースについて報告。構成員自身の行った SV におけるスーパーバイザーもしくは直接クライアントとの「かかわり」について事例を資料として報告した。メンバーは自身の点検を GSV のグループ過程の中で行うことになるのである。19:30 から 20:30 までを自由討議に充てた。第 1 回はオリエンテーション。第 9 回において総括を行った。講師としての筆者は討議について感じたことを率直に伝えた。

#### ⑤まとめ

本グループにおける報告内容は構成員自身の SVR としてのあり様についての反省を主題としたもの、あるいは直接クライアントとのかかわりについて省察を目的としたものである。このグループに参加する者にとって、ソーシャルワーカーとしての自己点検を行う機会である。単なる参加ではなく、自らを討議に投入し、最後に本グループで得られた思いを感想文にする。ある回の GSV の次の回には報告者のみならず、筆者を含め、メンバー全員がその回の感想文を提供する。報告者ではない構成員は、報告者の報告から様々な刺激を得る。本グループの筆者の各回の発言やコメントが、構成員にとっての主たる学びの契機ではないことを強調しておきたい。

全体を通しての構成員の感想は、後ページ【資料 3】内に掲載する。

### (3) その他グループ・スーパービジョン

<田村 綾子>

#### 総括

##### ①さいたま市社協スーパーバイザー養成基礎研修

さいたま市社会福祉協議会が主催して 4 年度目となる「スーパーバイザー養成基礎講座」は、プログラムを一部リニューアルして開催した。初日はスーパービジョン概論の講義と、講師による模擬スーパービジョンを展開しながら、参加者がグループ演習をするプログラムとし、約 2 か月間で 3 回程度のスーパービジョンを職場で実施した後、レポート持参にて 2 日目のプログラム（グループ演習）に進む形式である。

受講者は例年通り、市内の福祉施設や行政機関等の職員で、管理者や部下の教育に携わる者が多かった。福祉士の有資格者は少ないものの、早期離職を防いで新人や初任者を育成したいとの思いを抱えた者が多く、受講態度は熱心であった。

これまで 3 年間開催してきたが、スーパービジョン実践の具体的方法が分からず、2 日目に参加者が著しく減少する特徴をもっていたが、今年度はさいたま市社協の担当職員との協議を重ね、プログラム中に模擬スーパービジョンを取り入れたことは非常に評判がよく、参加者数も伸びたので効果的であったと考えている。

参加者のグループ討議における意見からは、利用者への責任を果たす使命と、新人職員の燃えつきを防ぐための方策を両立させることに苦慮する中堅層の苦労がうかがえた。必ずしも国家資格や専門知識を持たない者も採用せざるを得ないマンパワー不足の状況下で、職員がやりがいを感じ向上心を持って研鑽に励めるようにすることは、多くの福祉職場における喫緊の課題であると考えられる。スーパービジョンの実践が現場に根付くことで、こうした課題の解決に寄与できるよう、今後も研修実施に継続的に取り組んでいきたい。

##### ②シロアム会地域活動支援センターかなめにおける職員のスーパービジョン



2016年7月より、本学と縁の深い医療法人が運営する地域生活支援センターかなめ及び北千住旭クリニックの精神保健福祉士5名を対象に、グループスーパービジョンを実施している。職員のうち管理者1名を除き、新人から経験数年までの初任者中心であり、法人としての職員教育の一環として、事例を用いたスーパービジョンをグループで展開している。

職場が同じ者同士であっても、日常的には各自のかかわりを相談したり協議したりする時間は確保しにくいとのことで、この時間を用いて各自の実践を振り返ったり、職場内で話し合うべき事柄に関する協議も行っている。

毎回、担当者から提出される事例レポートを基に討議しているが、事例の支援方法に傾注しすぎることなく、ソーシャルワーカーとしての専門性に基づく振り返り・相互点検の時間とすることを推奨している。結果的に事例提供者以外の参加者からも、参考になったという声が多く、グループスーパービジョンとして順調に進んでいる。

#### (4) 個別スーパービジョン

<助川征雄>

実施回数：延べ16回

場 所：助川研究室

人 数：3名

<田村綾子>

実施回数：延べ1回

場 所：田村研究室

人 数：1名

<相川章子>

実施回数：延べ1回

場 所：相川研究室

人 数：1名

<大野和男>

実施回数：延べ15回

場 所：4号館4405教室他

人 数：2名

#### (5) スーパーバイザー支援制度

<田村綾子>

実施回数：3回

場 所：田村研究室

人 数：1名

(6) ピア・スーパービジョン

①第18回ピア・スーパービジョン 2016年9月24日(土) 10:00~15:30

場所: 聖学院大学4号館4階第一・第二会議室

人数: 23名(関係者含む総人数)

内容:

第一部 講演「高齢者が日常生活において交流している他者との関係: その分類と把握」

講師 古谷野 亘(こやのわたる) 聖学院大学人間福祉学部長・教授

鼎談 古谷野 亘(発題者)・酒井 貴子(098W024)・南里祐介(103W083) コーディネーター 深瀬久博(SWnet 代表・098W094)

SWnet 主催ランチ交流会(参加の場合: 実費1,000円程度)

第二部 ピア・スーパービジョン

導入 深瀬久博(SWnet 代表・098W094)

グループディスカッション

総まとめ 柏木 昭(聖学院大学名誉教授・総合研究所名誉教授・人間福祉スーパービジョンセンター顧問、社団法人日本精神保健福祉士協会名誉会長)

総合司会 山田裕太(SWnet 98W)

②第19回ピア・スーパービジョン 2017年2月4日(土) 10:00~15:30

場所: 聖学院大学4号館第一・第二会議室

人数: 30名(関係者含む総人数)

内容:

第一部 講演「ピアサポートとコミュニティインクルージョン—アメリカの実践および研究から—」

発題者 相川章子(あいかわあやこ) 聖学院大学人間福祉学部人間福祉学科教授

鼎談 「講演を受けて、日々の実践にてらして」 田中光太郎(107W063)、木下優輔(109W038)、長谷川瑞紀(113MW006) コーディネーター 相川章子(発題者)

SWnet 主催ランチ交流会(参加の場合: 実費1,000円程度)

第二部 ピア・スーパービジョン

導入 相川章子 聖学院大学人間福祉学科教授 SWnet

グループディスカッション

総まとめ 柏木 昭(聖学院大学名誉教授・総合研究所名誉教授・人間福祉スーパービジョンセンター顧問、社団法人日本精神保健福祉士協会名誉会長)

総合司会 山田裕太(SWnet 98W)

ピア・スーパービジョンプログラムは、後ページ【資料4】内に掲載する。

### III. 2016 度予算

#### 【収入】

項目	内容	金額
受講料	個別スーパービジョン	108,000
	個別スーパービジョン (卒業生)	14,000
	スーパーバイザー支援制度	8,000
	スーパーバイザー支援制度グループ版	120,000
合計		250,000

#### 【支出】

項目	内容	金額
報酬・委託・手数料	スーパーバイザー報酬 (個別・支援・支援グループ)	260,000
消耗品費	未使用	0
旅費交通費	スーパーバイザー交通費	35,000
通信・運搬費	グループ SV, ピア SV 案内 (料金後納郵便)	116,000
印刷製本費	名刺作成 (柏木先生)	2,000
集会費	スーパーバイザー情報交換会	0
賃借料	大学で実施の為未使用	0
合計		413,000

### IV. 2016 決算 (2017 年 3 月 31 日)

#### 【収入】

項目	内容	金額
受講料	個別スーパービジョン	180,000
	個別スーパービジョン (卒業生)	6,000
	スーパーバイザー支援制度	24,000
	スーパーバイザー支援制度グループ版	252,000
合計		462,000

#### 【支出】

項目	内容	金額
報酬・委託・手数料	スーパーバイザー報酬 (個別・支援・支援グループ)	257,482
消耗品費	未使用	0
旅費交通費	スーパーバイザー交通費 (柏木先生、大野先生)	46,126
通信・運搬費	グループ SV, ピア SV (2 回分) 案内 (料金後納郵便)	106,330
印刷製本費	名刺作成 (柏木先生)	1,836
集会費	スーパーバイザー情報交換会	0
賃借料	大学で実施の為未使用	0
合計		411,774

## 【資料1】2016年度 スーパービジョンセンター委員会記録

第1回委員会：5月25日（水）11:30-12:30

場 所：4号館4405室

出席者：柏木昭、中村磐男、牛津信忠、助川征雄、田村綾子、相川章子、木下大生

事務局：木下元、辻本修、小野逸穂（記録）

1. 前回議事録承認

2. 報告事項

(1) 個別スーパービジョン

助川：1名実施

相川：1名実施（今年度の契約更新、2ヶ月に1回実施）

田村：1名実施（月1回実施予定）

大野：1名実施

(2) スーパーバイザー支援制度

相川：M氏 しばらくの間お休み

田村：E氏 現段階で今年度の契約はまだ

(3) グループ・スーパービジョン

○聖学院大学グループ・スーパービジョン

事務：開催案内を4/28に郵送。申込締切は5/31。（添付チラシ参照）

・郵送先 計726通（発送数は例年通り）（W卒業生（15・14・13年卒）236名、実習先（2011-15年）60カ所、埼玉県内の福祉施設等298カ所、過去SVCのプログラムに参加した方々132名）

・その他（さいたま市社会福祉協議会へ30部、日本精神保健福祉士協会埼玉支部へ5部）

・大学HP、総研HPへ告知済。

相川：卒業生へメール等で直接お知らせするためにチラシデータの送付を希望。

○その他

助川：さいたま市こころの健康センター（年3回40名で実施、SVCで取り上げるものでは無くなってきている→主旨を伝えていく）

相川：杜の家（月1回研究室でピアサポーターのグループ（4名）のサポートを実施、アドバイザー契約2016.7月まで継続）

(4) スーパーバイザー支援制度グループ版（戸塚）

柏木：2016年度予定

1名追加予定→受講者代表のAさんと契約について確認が必要。

(5) GSV 修了証書について（3/9 発送）

・2008-2014年度（66名）→宛先不明で返送6通。

・2015年度（9名）は柏木先生へ最終日にお渡しした。

3. 活動について、検討確認事項

- ①2015 年度決算、2016 年度予算（配布資料）の確認。
  - ・年次報告書は6/3（金）までに確認を依頼
- ②スーパーバイザーおよびコーディネーターの肩書等確認。（総研 HP 改装に伴い SVC 部分も改装）
  - ・メールにて5/30（月）までに確認を依頼
- ③委嘱状の送付について
  - ・年度ごとに SVR の先生全員へ送付することになった。（2016 年度の添える手紙は中村先生へ依頼。）
- ④秋の PSV 日程について
  - 10/1(土)は OC ではなく入試に変更となった（PSV 実施は可能）。9/24（土）OC を検討。
  - 9/24（土）となった。
- ⑤PSV 今後について
  - 春の PSV(2/4(土))については引き続き検討することとなった。

第2回委員会：7月27日（水）11:30-12:30

場 所：4号館4405室

出席者：柏木昭、中村磐男、牛津信忠、助川征雄、相川章子

欠席者：田村綾子、木下大生

事務局：木下元、辻本修、小野逸穂(記録)

1. 前回議事録承認

2. 報告事項

(1) 個別スーパービジョン

助川：1名実施

相川：1名実施（来年2月以降再開予定）

田村：実施なし

大野：1名実施

(2) スーパーバイザー支援制度

(3) グループ・スーパービジョン

○聖学院大学グループ・スーパービジョン

事務：申込みが3名、締切（5/31）後に問い合わせが1名あったが、開催人数（5名）に達しなかったため、今年度開講のプログラムは中止となった。来年度以降も募集を継続していく。（申込みの3名の内、2名は新規、1名は15年度の継続 ⇒今後のプログラムのお知らせをご希望）

○その他

助川：さいたま市こころの健康センター（実施内容について検討）

相川：杜の家（月1回研究室でピアサポーターのグループ（4名）のサポートを実施、アドバイザー契約2016.7月まで継続）現在1名で実施中。2月以降再開予定。

田村：平山先生が関与されていた法人の地域活動支援センターよりグループSVの依頼があり、7月22日にオリエンテーションを行った。今後契約を結び、3か月に1回程度のグループSVを実施する。（本学の卒業生も同法人のクリニックに勤務しており一緒に参加します。）

- (4) スーパーバイザー支援制度グループ版（戸塚）  
柏木：2016年度予定  
9月開始予定、前年度の4名に新たに2名参加予定。

- (5) さいたま市社協のSVR養成基礎講座  
田村：初日を8月3日に開催予定

### 3. 活動について、検討確認事項

#### ① PSV（9/24開催）について

- ・当日のながれ  
開会挨拶：牛津先生、閉会挨拶：中村先生、総まとめ：柏木先生、PSV導入：SWnet 深瀬さん（予定）
- ・チラシ発送について  
直近から5年分のW卒業生とこれまでSVCプログラムに参加された方々約500名分へ、今週発送予定
- ・チラシ依頼（相川先生へ50部、人間福祉の先生方の各メールBOXへ）
- ・総研HPへUP済、大学HP掲載を広報へ依頼済、学科HPへの掲載手順を確認する
- ・過去に参加された方々へのメールでの告知（100名分について確認する）→55名へ送信
- ・事務方の配置について最小限に →担当とRA1名で行う。

#### ② PSV（2/4開催予定）について（継続課題）

- ・講演：相川先生、挨拶等：SWnetで行うことを検討
- ・チラシの準備を深瀬さんと直接すすめていく→SWnet中心におこなっていきたい
- ・チラシ発送先は予算の範囲内に

#### ③ SWnetとのミーティングについて

- ・インフォメーションについて  
学科会や卒業式等でSWnetについてインフォメーションすることについて検討したい。（先生方の協力が必要。SWnetのメンバーが大学に来てインフォメーションするなど）  
（目標としては、卒業して1-3年目はPSV参加者として、4-6年目はPSVの運営に関わってほしい）名簿については学科で検討したい。

### 第3回委員会：10月19日（水）11:30-12:30

場 所：4号館4405室

出席者：柏木昭、中村磐男、牛津信忠、助川征雄、木下大生

欠席者：田村綾子、相川章子（特別研究期間）

事務局：木下元、辻本修、小野逸穂（記録）

#### 1. 前回議事録承認

#### 2. 報告事項

##### (1) 個別スーパービジョン

助川：2名実施（SVR支援制度やSVRになることを勧めている）

相川：（来年2月以降再開予定）

田村：実施なし

大野：1名実施、新規申し込み1名実施（今後2・3回実施予定）

(2) スーパーバイザー支援制度

田村：E氏申込み

所属機関：さいたま法務総合庁舎社会復帰調整官（14・15年度から引続き）

(3) グループ・スーパービジョン

○聖学院大学グループ・スーパービジョン ※16年度は開催定員に満たず中止。

○その他

助川：さいたま市こころの健康センター（40名参加、具体的な例を出しPSWの専門性を大事にしたGSVを行う。）11/18、1/25予定。さいたま市は新人のPSWが増え（48名こころの健康センターから行政、保健所、教育委員会、区役所へそれぞれ派遣されている。）

相川：杜の家（月1回研究室でピアサポーターのグループ（4名）のサポートを実施、アドバイザー契約。2016.7月まで継続）現在1名で実施中。2月以降再開予定。

田村：平山先生が関与されていた法人の地域活動支援センターよりグループSVの依頼があり、7月22日にオリエンテーションを行った。今後契約を結び、3か月に1回程度のグループSVを実施する。（本学の卒業生も同法人のクリニックに勤務しており一緒に参加。）次回10月25日予定

(4) スーパーバイザー支援制度グループ版（戸塚）：柏木サロン

柏木：2016年度 6名 10/18実施

(5) さいたま市社協のSVR養成基礎講座

田村：10月26日に開催予定

3. 活動について、検討確認事項

① PSV（2/4開催予定）について

- ・チラシ発送予定（12月中旬） 予算¥14,000-（約250通）
- ・大学HP、FB、総研HP、
- ・メール送付（SVCプログラムの過去の参加者55名）
- ・人間福祉の先生方のメールボックス

② 9/24PSVについて

- ・アンケート集計（資料）  
総合研究所ニューズレター、年次報告書に掲載予定。  
項目の追加やお気付きの点等あればお知らせください。

③ SWnetのインフォメーションについて（SWnetからの議題）

- ・学科会や卒業式等でSWnetについてインフォメーションすることについて検討したい。  
（先生方の協力が必要。SWnetのメンバーが大学に来てインフォメーションするなど）  
（目標としては、卒業して1-3年目はPSV参加者として、4-6年目はPSVの運営に関わってほしい）  
・名簿については学科で検討したい。

⇒相川先生が戻られてから木下先生と検討していただく

第4回委員会：1月25日（水）11:30-12:30

場 所：4号館 4405室

出席者：柏木昭、中村磐男、牛津信忠、助川征雄、田村綾子、木下大生

欠席者：相川章子（特別研究期間）

事務局：木下元、辻本修、小野逸穂（記録）

1. 前回議事録承認

2. 報告事項

(1) 個別スーパービジョン

助川：1名実施（SVR支援制度やSVRになることを勧めている）

事務局より ※1、2月分振込済み →M氏に事務局から返金について確認予定

2名実施→終了

相川：（2月以降再開予定）

田村：実施無し

大野：2名実施

(2) スーパーバイザー支援制度

田村：E氏申込み さいたま法務総合庁舎社会復帰調整官（14・15年度から引続き）12月、2月に各1回実施

(3) グループ・スーパービジョン

○聖学院大学グループ・スーパービジョン：16年度は開催定員に満たず中止。

○その他

助川：さいたま市こころの健康センター（1/25実施（成功事例、失敗事例について）

田村：医療法人財団シロアム会 地域活動支援センターかなめ（平山先生が関与の法人の地域活動支援センター）1月に実施、4月実施予定（卒業生のY氏がクリニックに勤務）

(4) スーパーバイザー支援制度グループ版（戸塚）：柏木サロン

柏木：2016年度 6名

10/18、11/15、12/20、1/17実施、2/21、3/21、3/28予定（計7回）

(5) さいたま市社協のSVR養成基礎講座

田村：10/26に応用編を開催（基礎編は7月）4年目となり年々プログラムが充実してきた。来年度も予定。離職率が高いのでSVはやらなければいけないと理解されている。

3. 活動について、検討確認事項

① PSVプログラム（2/4開催）について

・開会の挨拶は牛津先生、閉会の挨拶は中村先生に変更。（午後のプログラムPSV時に教員は席を外すことになっており、柏木先生はグループ発表時から入室予定）

② 次年度の活動について

GSV募集について

・田村先生（今年度担当講師）の特別研究期間（8月～1月末まで）

・次年度の担当講師について、田村先生から大野和男先生に依頼することとなった。

（16年度はチラシ発送4月末、726通（約45,000円分））



PSV 開催予定について

- ・SWnet から提案

午後に講演会と PSV をまとめて行いたい。(ランチミーティングに関しては今後検討したい)  
例年通り年 2 回の開催を希望。

③ 年次報告 (2016 年度) について

事務より ※例年通り下記について依頼予定。(締切 3 月末)

- ・中村先生：「はじめに」
- ・柏木先生：「SVR 支援制度グループ版 (柏木サロン) の総括」
- ・田村先生：「さいたま市社協の SVR 養成基礎講座、四国更生保護委員会 SVR 養成研修」

4. その他

次第に個人情報が含まれるため **取扱い注意** と入れることとなった。

第 5 回委員会：2 月 15 日 (水) 11:30-12:30

場 所：4 号館 4405 室

出席者：柏木昭、中村磐男、牛津信忠、助川征雄、相川章子、木下大生

欠席者：田村綾子

事務局：木下元、辻本修、小野逸穂(記録)

1. 前回議事録承認

2. 報告事項

(1) 個別スーパービジョン

助川：M氏 (SVR 支援制度や SVR になることを勧めている)

事務より※2 回分多い振込を確認し返金について連絡したところ、年度内に実施希望  
とのことです。

2 名実施 (終了)

相川：実施無し (2 月以降再開予定)

田村：実施なし

大野：2 名実施

(2) スーパーバイザー支援制度

田村：E 氏申込み さいたま法務総合庁舎社会復帰調整官 (14・15 年度から引続き)

12 月、2 月に各 1 回実施

事務より ※例年、関東地方更生保護委員会宛に請求書 (支払期限 3 月末) を送付し  
ています。これまでの実施報告書と 3 月のご予定をお知らせください。

(3) グループ・スーパービジョン

○聖学院大学グループ・スーパービジョン<16 年度は実施なし>

○その他

助川：さいたま市こころの健康センター (精神保健福祉センターから改名)

次年度も依頼されている (年 3 回 45 名 実施方法検討中)

相川：杜の家 3/2 より再開 (毎月 1 回)

田村：医療法人財団シロアム会 地域活動支援センターかなめ（平山先生が関与の法人の地域活動支援センター）

(4) スーパーバイザー支援制度グループ版（戸塚）：柏木サロン

柏木：2016年度 6名

10/18、11/15、12/20、1/17 実施、2/21、3/21、3/28（総括） 予定（計7回）

事務より ※最終回(3/28)実施後に、柏木先生からのご連絡をお待ちしております。  
ご連絡をいただき次第、請求書を発送します。

(6) その他

事務より ※年度末となりますので、実施報告書は実施後早急にご提出ください。

3. 活動について、検討確認事項

① 次年度について

・委員会の体制

センター長、委員長：相川先生

顧問：柏木先生、委員会メンバー：田村先生、牛津先生、助川先生、中村先生

・GSV担当講師

17年度は大野和夫先生

・事業計画・予算

・PSV日程

暫定 9/30、2/3

② 2/4PSVについて（報告）

③ 年次報告（2016年度）について

事務より ※例年通り下記についてご依頼します。（締切3月末）

・中村先生：「はじめに」

・柏木先生：「SVR 支援制度グループ版（柏木サロン）の総括」

・田村先生：「さいたま市社協の SVR 養成基礎講座、シロアム会地域活動支援センターかなめ職員 SV の総括」

4. SVC 委員会開催予定

事務より ※今のところ例年通り 5月、7月、10月、1月、2月の学科会の日に開催予定

聖学院大学人間福祉スーパービジョンセンター

2016年度

## グループ・スーパービジョンへのお誘い

保健・医療・福祉現場や企業で対人援助の仕事をしている方々へ

指導をしてくれる先輩職員がいない・・・  
先輩職員が忙しそうで、聞きたくても聞けない・・・  
諸事情で新人教育ができない・・・  
よくわからないまま目の前の仕事をこなしている・・・

—そんな不安や戸惑いを抱えながら働いている人は少なくありません—



グループ・スーパービジョンは  
仲間とともに学び成長しあえるプログラムです



2016年度は6月から開講します。実践のレポートをもとに自身のソーシャル  
ワーカーとしてのかかわりについて互いにふりかえる機会を持ちましょう。

日 時：原則 2016年6月～3月 第4水曜日 18：30～20：30

会 場：聖学院大学 4号館4階 4405教室（予定）

費 用：¥30,000円（前年度から継続受講の方及び本学卒業生は¥20,000）

担 当：田村綾子（聖学院大学人間福祉学部人間福祉学科教授

・公益社団法人日本精神保健福祉士協会副会長・研修センター長）

定 員：10名（お申込み人数が5名から開催します。）

- ◆原則として1年を通して参加していただくことになります。
- ◆受講申込書に必要事項を記入し写真添付の上、郵送でお申し込みください。
- ◆申込締切 2016年5月31日（火）必着
- ◆ご不明な点はお気軽にお尋ねください。



聖学院大学 人間福祉スーパービジョンセンター

〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1番1号 TEL048-725-5524 FAX048-781-0421

E-mail: research@seigakuin-univ.ac.jp



## その他のプログラムのご紹介



### <個別スーパービジョン>

グループ・スーパービジョンの日時では都合がつかない、個別の事情に合わせた相談をしたいという方へ

日 時：相談の上、希望の日で調整 1回 1.5時間程度

会 場：聖学院大学、その他各地

費 用：1回¥6,000 聖学院大学卒業生は1回¥2,000

※講師には、本学人間福祉学科教員の助川征雄、相川章子、田村綾子をはじめ、大野和男、廣江仁など学外からも精神保健福祉士、社会福祉士の資格をもつ教員が講師を務めています。



### <スーパーバイザー支援制度>

すでに現場でスーパービジョンを行っている、後輩や部下に指導を行う立場にあるという方へ

日 時：相談の上、希望の日で調整 1回 1.5時間程度

会 場：聖学院大学、その他各地

費 用：1回¥8,000 聖学院大学卒業生は1回¥5,000



### <ピア・スーパービジョン>

必要な知識や日々の業務を見直す研修会に参加したい、対人援助職同士で情報交換をしたいという方へ

日 時：10月初旬頃を予定しています

会 場：聖学院大学

内 容：講演、報告、グループディスカッション、など

費 用：無 料（ランチ交流会、懇親会に参加する場合は会費別途）



## 聖学院大学 人間福祉スーパービジョンセンター

〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1番1号 TEL048-725-5524 FAX048-781-0421

Email: research@seigakuin-univ.ac.jp

### 資料3 【2016年度 柏木サロン全体を通しての構成員の感想】

#### 1 構成員 A

昨年9月に始まった柏木サロンⅡが終了した。新しく2名のSVRを迎えて6名で始めた今季もあっという間の7か月が過ぎた。この月一回の非日常的な時間空間が好きだった。日頃は慌しく、病棟や地域からの電話に始まり、若手PSWに向けてのOJTは時間が足りないほどだ。そして、管理職とは名ばかりの現役PSWを自負しているため、担当ケースのSWは日々動いていた。若手からの相談にもその場で対応しなければならない。それが嫌でもなし、尋ねられれば、じっくり向き合いたかった。しかし、日本PSW協会認定SVR養成講座に参加してみて、いかに上司として至っていなかったかを感じさせられた。指示的過ぎたのではないかと反省した。PSWとして生きて来て25年を超えた。若手はこれから生きていく。悩んだり、迷ったり、間違えたり、つまずいたり。そのような経験があっても時間、経験を重ねていくことを止めなければ、それが層になっていく。自身がそうであったことを思い出す。今となっては、上から指導されることも、指示されることもなくなった。しかし、それが心地よかったわけでは決してなかった。

養成講座を経て4人の認定SVRと出会うことが出来た。其々が全く違う職場で生きていた。4人で結成した「神奈川精神保健福祉SV研究会」、通称『まつみ』のコンセプトは、神奈川県内の精神保健福祉分野に働く同志PSWとSVを通して出会い、日頃の自身を共に振り返りながら、SVがその経験を糧に後進PSWに支持的、教育的に関わり、職場でのSVEが前向きに職務に向かえるよう期待するものだった。認定SVRは頂けたものの、私たちはこれで良いのかとそれぞれが不安に感じていた時、柏木昭先生とのご縁を頂いた。私にとって、先生はこの世界に足を踏み入れてからの、PSWの祖、雲上の偉人のような存在であった。SVを受けて頂けるといような幸運に恵まれ、生きた先生の言葉を耳にすることで、PSWとしてではなく、「人」として感じた思いを口にしても良いのかと、初めて「素直な感じ方」を許されたような気がした。これだけPSWを生きて来て、まだまだ「気付き」は終わること無く、到達していないこともたくさんあるように思えて、嬉しくさえ感じてくる。そんなことを毎回思い、耽らせてくれるこの柏木サロンの仲間と、毎月遠路足を運んでくださる柏木昭先生には、いつも感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。今後とも、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

#### 2 構成員 B

今回で2回目のGSVであるが、自分のGSVで出したテーマの副題“等身大の自分と向き合う”、そして、その中で話が「率直であること」「役割意識からの解放」などの言葉が心に残っている。

自身の発表以降、率直であること、そして相手と語り合うことを心がけている。その結果、相手とのやりとりが増え、相手からの率直な思いを聞くことが増えた気がする。また、他の職種の同僚からも「GSVを受けてより率直さに磨きがかかった」というコメントを聞くことが増えた。それはやはりGSVの中で、検討を重ねていった結果であると思うし、グループの中で、グループのメンバーの力を借りて発言していくこと、そして発言したことが受け入れられていくという安心感があったからなのではと思う。

次に役割意識であるが、率直さと関連してやはり意識することは多くなった。それは、率直に伝える自分の考えが、果たして“PSWとしての自分の考え”なのか“生身の自分の考えなのか”である。自分自身の中でまだ答えがあるわけではないが、“等身大の自分”ということを考えて、両者は分けることはできないのではと考えているし、分けるものでもないのかなということも感じる。相手と出会った、やりとりをする中で考えたことなのだから、むしろその点を大事にすることが大切なのではと考えるようになった。

また、役割意識で考えることのもう一つは、自分自身がSVRとして成長していかななくてはということである。他の参加者の発表の中で、後輩の指導がテーマになるものがあった。自分自身のPSWとしての成長も大切であるが、後輩や実習生などの成長にも寄与できるSVRでなければという思い

を新たに持った。今後は、GSVの中で培った、率直なやりとりを軸にしてSVを実施して行きたいと思う。PSWになる道が険しいことと同様に、SVRになる道も険しいと思うが、是非進んで行きたいと思う。

### 3 構成員 C

今回のGSVでは、新たにメンバーが加わり、テーマも利用者とのかかわりだけでなく職場の責任者としての課題、精神保健福祉士としての後進指導に関する事がテーマにありました。このグループでは自分がSVEという立場で臨む場であると思っていましたが、SVRという位置でかかわりに関して考える場でもあるという事を、改めて理解しました。しかし、当事者とのかかわりも、職場で後輩に指導する立場でも、精神保健福祉士として後進指導を考える立場であっても、そこには必ず精神障害当事者とのかかわりを大切にしたいという思いがあるからこそであり、GSVでは、自身の支援を振り返る時間を仲間と共有し、次の日から前向きにまた支援ができる気持ちにさせていただきました。「もっと自分にできる事があるのではないか」と悩む事は誰しも共通の部分があり、さらにそこには支援をする中でコミュニケーションをしっかりとっているつもりであるが、実は自分の気持ちを伝えていない自分自身の発見もありました。

また、精神保健福祉士の活動領域の広がりや改めて知った司法領域の入口支援の事例からは、15分面会という限られた時間の中で支援をする難しさや、精神保健福祉士という職種が世の中にはまだまだ知られていないために、役割から説明をしなければならぬ厳しい現状も知りました。そのような状況の中でも、当事者の味方となり当事者に寄添っていく事ができるのだと知りました。

柏木サロンでは、本当に多くを勉強させていただきました。ありがとうございました。

### 4 構成員 D

今回、このGSVに参加させて頂くことになったきっかけの一つに、震災支援で石巻に赴いたことが大きかったように思います。そこで感じたことは、「果たしてPSWにできることは何か?」という不安も含んだ疑問でした。PSWの職務に就いて10年が過ぎ、改めて「PSWとは何か」、「果たして私はPSWになれているのか」を考えたいと思いました。

PSWとしての職務に就いて10年が過ぎ、改めて「PSWとは何か」、「果たして私はPSWになれているのか」を考えたいと思いました。柏木講師が繰り返し言われたことの中で、「支援者ぶらず、本音で伝えること」という言葉がありました。その度に私は本音で関わる覚悟ができていたか、自問していました。「本音で向かい合う勝負」。心に突き刺さるようでした。私が今までしてきたことは支援者ぶって、「その人そのもの」を変化させようとしていたのではないかということに気づかされたからです。事例の発表、あるいはその準備は正に自分と向き合う作業でした。自分自身に矛盾を感じずにはいられず、何度も頭を抱えたくなりました。しかし、皆さんの前で発表し、先生や皆さんから忌憚のないご意見を頂戴し疑問を投げかけて頂くことで、自分で感じていた矛盾の正体が見えたような気がして、あるいはこれまでもやもやしたものが晴れて、思わず「浄化された」という言葉が口をついて出てしまったのだと思います。

### 5 構成員 E

前年度からのメンバーに声をかけていただき、正直不安もありましたが、私自身の悩みと成長したいとの気持ちから柏木先生のスーパービジョンに参加させていただきました。

手元に残っているメンバーの事例と毎回のレポートの厚みが、PSWとしてのあり方を見つめなおす大切な資料となりました。読み返していく度に各回のコメントや感じたことを振り返り、時間が経って改めて読み返してみると更にPSWとしての自分がどうあるべきかを問い直しています。

今の私は現場から離れ、私自身が想像もしていなかった大きな組織の立場を担うようになり、正直戸惑いもありますが、PSWとしてのあり方は振り返っているつもりになっているだけで、組織（配属先の病院だけでなく、グループ全体の各病院、施設のMSW、PSW）をどのように成り立たせていくかに意識がかなり向いていたと、事例のスタッフとの向き合い方を通して気づかされました。管理職になってから何度となくPSWと名乗っていいのかと考えるときもありましたが、今後も学生や若



手、中堅者の指導育成を考える立場のPSWとして、専門性をどのように考えているのかを向き合い話し合える態度で臨んでいきたいと思います。

改めて、傾向として私自身が合わないと感じる人との向き合い方を見つめ直す機会となったことや、毎回の事例を通してそれぞれの意見を聴き、感想レポートで更に振り返り、私自身に足りないことはたくさんあることも再認識できました。今後、意識的にゆとりをつくりPSWとして何を大切にしていけるのか、誰のため何のための実践なのかなど、他のSWとともに考え、言語化しながら、一緒に成長したいと思う機会となりました。ありがとうございました。

## 6 構成員F

経験豊富なSVR 諸氏の話は毎回時間を忘れるほど引き込まれた。PSWが置かれている今とともに「PSWとはなんぞや」と何度も問い直すことが出来た。私は「PSWとはなんぞや」について突き詰めて考えてこなかった。柏木サロンの対話は、自分の中にあるPSWに関するピースを統合する過程であった。統合することで、自分の中に新しい思考を受け入れる空間が生まれる感じもした。

統合する過程において印象深いのは「自己開示」、自分の正直な考えをクライアントや周囲に伝えていくことの意義である。私が悩んでいることは、整理せずに自分の引出しに、しまいこんだり、しまったものに無自覚なことであった。自分がもっているもの(悩みや葛藤だけでなく経験や知識、信念や理念)を開けてみると自分のあり様や自分が他者をどう見ていたのかも見えてくる。それは自己覚知と言えそうかもしれない。昨今は自己覚知が大事と習うが、柏木サロンで感じたのは、自己開示と統合の過程の方が大切で、結果として自分を知る経験があるということである。でなければ、柏木サロンで得た新しい考えを受け入れることは難しかったと思う。

自分がSVEとなる経験は、話を聞くときの気持ちの高まり、相手に伝えるときの自分への問いかけなど刺激的だった。同時にグループの安心感が大きな支えとなっていた。柏木サロンは躊躇なく話が展開するが、普段のグループがここまで温まるには時間がかかると感じた。ここで経験した、様々な意見が大きな一つの流れになっていくような時間を、自分自身の今後のSVにおいて実現できるよう努力していきたい。

柏木先生、SVRの皆さんに心から感謝しています。ありがとうございました。

聖学院大学総合研究所  
人間福祉スーパービジョンセンター主催  
人間福祉学科・SWnet(聖学院ウェルフェアネット  
—卒業生を中心とする福祉のネットワーク)共催

# 第18回 ピア・スーパービジョン

2016年9月24日(土) 10:00(受付9:30)～15:30 終了予定  
聖学院大学 4号館 4階 4402 教室 (第一会議室)

## プログラム

総合司会 山田裕太 SWnet

10:00～10:10 挨拶 中村磐男  
聖学院大学人間福祉学部特任教授・人間福祉スーパービジョンセンター長

10:10～11:10 講演会  
発題「高齢者が日常生活において交流している他者との関係：その分類と把握」  
発題者 古谷野 亘 (こやの わたる) 聖学院大学人間福祉学部長・教授

11:10～11:15 休憩

11:15～12:00 鼎談  
古谷野 亘 (発題者)・酒井 貴子 (098W024)・南里祐介 (103W083)  
コーディネーター 深瀬久博 (SWnet 代表・098W094)

12:00～13:15 SWnet 主催 ランチ交流会 (参加の場合：実費 1,000 円程度)

13:15～15:20 ピア・スーパービジョン  
13:15～13:30 導入 深瀬久博 (SWnet 代表・098W094)  
13:30～14:45 グループ・ディスカッション  
14:45～15:00 グループ発表 (全体共有)  
15:00～15:20 総まとめ 柏木 昭 (聖学院大学名誉教授・総合研究所名誉教授・人間福祉スーパービジョンセンター顧問、社団法人日本精神保健福祉士協会名誉会長)

15:20～15:30 閉会 牛津信忠 聖学院大学人間福祉学部人間福祉学科客員教授・前学部長

♪ 懇親会  
プログラム終了後、SWnet の企画による懇親会があります。参加歓迎・会費別途  
懇親会会場：「北海道」大宮店 (大宮駅東口徒歩 1 分) TEL03-6161-5234

♪ 学生バス  
無料で学生バスをご利用いただけます。時刻表は掲示や本学 HP でご確認ください。



## 聖学院大学人間福祉スーパービジョンセンター主催・SWnet 共催 第18回ピア・スーパービジョン報告



会場の様子と古谷野巨人間福祉学部長・教授

2016年9月24日（土）、聖学院大学4号館第一・第二会議室を会場に、「第18回ピア・スーパービジョン」（聖学院大学人間福祉スーパービジョンセンター主催・SWnet [聖学院ウェルフェアネット—卒業生を中心とする福祉のネットワーク] 共催）が行われた。開会の挨拶は、牛津信忠氏（聖学院大学人間福祉学部人間福祉学科客員教授・前学部長）が務められた。総合司会は、山田裕太氏（SWnet）が務められた。

第1部の講演は、古谷野亘氏（聖学院大学人間福祉学部長・教授）が担当された。引き続き行われた鼎談は、古谷野氏と、酒井貴子氏、南里祐介氏がパネラーを務め、深瀬久博氏（SWnet代表）がコーディネーターを務められた。午後のスーパービジョンでは、冒頭で深瀬久博氏が導入を担当された後、ピア・スーパービジョンを行った。

古谷野氏の講演は、「高齢者が日常生活において交流している他者との関係：その分類と把握」と題されて行われた。若者の場合、人生経験を重ねていくにつれて「付け加わっていく」人生であるのに対して、高齢者は何か「抜け落ちる」人生である。例えば、配偶者や親しい友の喪失などである。そのような大きな生活変化の出来事が起こった際に、いかにその変化に適応していくかは、自分の持つリソース（他者・財産・健康）の多さに

依存している。特に、他者との関係の有無は環境の変化に伴うストレスの緩和において重要である。地域交流も同様である。

「家族」という関係は、従来と比べて、絶対的な単位ではなくなってきたが、依然として特別な存在であることは変わりなく、重要なサポートの源泉である。しかし、家族・親族以上の他者の存在は、ある面では、家族以上の存在となりうる。その意味で、家族を含めた「他者」を、どのようにして意識していくかが大切である。「他者」は、家族も含め、「目的内関係の他者」「場を共有する他者」「特に親密な他者」の三つに分類できる。この三つの関係が重なり合うような「他者」は、ほんのわずかな人数にすぎないであろう。しかし、目的内関係の他者、場を共有する他者との関係を、絶えず持ち続けていることは重要である。

鼎談では古谷野氏に加え、本学の卒業生である酒井氏及び南里氏が、現場の状況を踏まえつつ、講演に対するレスポンスを行った。古谷野氏は、酒井氏が働く成年後見人制度をサポートする職場の理事を務めておられ、今日の成年後見人の複雑な状況を丁寧に説明された。また、男女間の関係構築の差や、サポートの仕方の違いなども議論された。

第2部の「ピア・スーパービジョン」では、少人数のグループに分かれ、スーパービジョンを行った。実際のピア・スーパービジョンの内容は議論の性質上割愛させていただくが、自己紹介を交え、なごやかな雰囲気の中、一人一人が率直な意見を出しあうと共に、現場で働くソーシャルワーカーが立場を超えて聞きあい、他者の意見を否定することなく共有することを重んじていたことが印象的であった。この場所に来て、私は一人ではない、ということが確認できてうれしかった、という声も聞かれた。

グループ発表の後、柏木昭氏（聖学院大学名誉教授、人間福祉スーパービジョンセンター顧問）

が総括を語られた。日々の働きの中でクライアントと向き合い悩むことを、むしろ大切にしていた  
 だきたい、また、この会をよりよく発展させてほ  
 しい、とのお薦めをいただいた。閉会の挨拶を中  
 村磐男氏（聖学院大学人間福祉学部特任教授・人  
 間福祉スーパービジョンセンター長）が担当され、  
 この会の親密な雰囲気を感じ大切にさせていただき  
 たい、と締めくくられた。

出席者23名（講師含む）。

（報告者：五十嵐 成見 [いからし・なるみ] 聖学  
 院大学大学院博士後期課程）

# 本

## 既刊のご案内

ご注文は出版会HP <http://www.seigpress.jp/> または、  
 お近くの書店、Amazon.co.jpからお願いいたします。

健康科学

### ヘルスプロモーション

和田雅史・齊藤理砂子 著

A 5判 2,500円（税別）

2016年2月発行

「ヘルスプロモーション」の理念  
 に基づき、環境改善なども含  
 め、生涯にわたって必要とされ  
 る健康科学の基礎知識をまとめ  
 ている。



### 安全という幻想

——エイズ騒動から学ぶ

郡司篤晃 著

四六判 274頁 2,000円（税別）

2015年7月発行

エイズ政策の意思決定にかかわ  
 った当事者が綴る、30年越しの  
 真実と再発防止への提言。



Veritas Books

### 専制と偏狭を 永遠に除去するために

——主権者であるあなたへ

阿久戸光晴 著

新書判 202頁 1,600円（税別）

2015年3月発行

基本的人権、国民主権、地方自  
 治、日本国憲法の意義を語り、  
 真の自由の行使を提言（『聖学院  
 大学総合研究所紀要』29～57  
 号巻頭言他）。



### デジタルの際

——情報と物質が交わる現在地点

河島茂生 編著

四六判 364頁 2,000円（税別）

2014年12月発行

初代マッキントッシュが1984年  
 に発売されてから30年、デジタル  
 の現在を照射する。

佐々木裕一・椋本輔・横山寿世理・  
 畠山宗明・西川アサキ・岡部晋典・  
 加藤裕康 著



お問い合わせ先



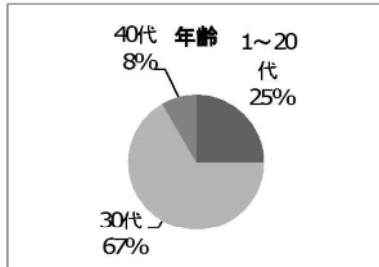
聖学院大学出版会 TEL:048-725-9801 FAX:048-725-0324  
 URL:<http://www.seigpress.jp/>

**集計表**（グラフはN/A除く）  
参加者は23名。内、アンケート回答者12名。

**1.プロフィール**

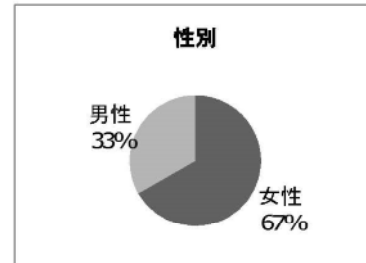
**年齢**

1～20代	3
30代	8
40代	1
<b>総計</b>	<b>12</b>



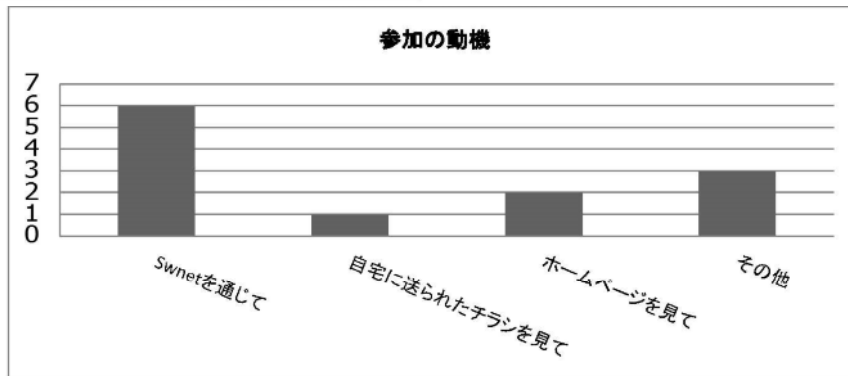
**性別**

女性	8
男性	4
<b>総計</b>	<b>12</b>



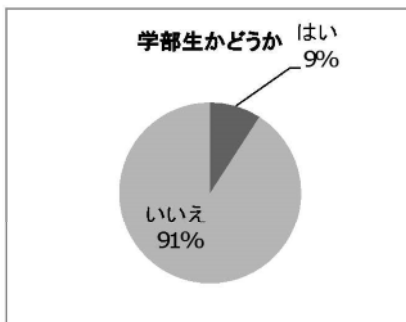
**参加の動機**

Swnetを通じて	6
自宅に送られたチラシを見て	1
ホームページを見て	2
その他	3
<b>総計</b>	<b>12</b>



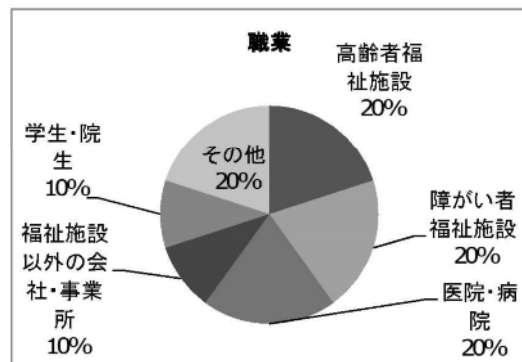
**現在聖学院の学部生か**

はい	1
いいえ	10
N/A	1
<b>総計</b>	<b>12</b>



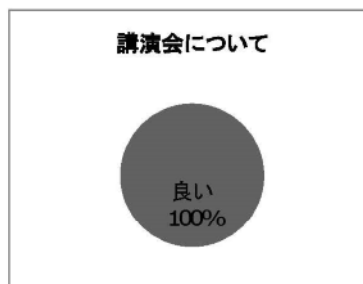
**職業(学部生は除く)**

高齢者福祉施設	2
障がい者福祉施設	2
医院・病院	2
福祉施設以外の会社・事業所	1
学生・院生	1
その他	2
N/A	1
<b>総計</b>	<b>11</b>



## 2. 午前の部 講演会について

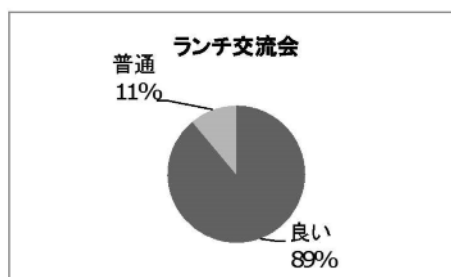
良い	10
N/A	2
<b>総計</b>	<b>12</b>



- ・ 社会の社会関係について最新の研究トピックスを知ることができた。老年学後期高齢者のステージに関わらずあらゆるライフステージにも関わってくる課題ではないかと思う。
- ・ 自分自身の人間関係の振り返りもできました。場を共有する関係、大事にしていきたいです。
- ・ 普段多くの方と接する機会があることを分類に分けて考えるのが面白かった。
- ・ 普段、特に意識したことがない人間関係が社会関係の位置づけを改めて考えさせて頂ける機会になりました。家族にも共有していけるようシェアしたいと思います。

## 3. ランチ交流会

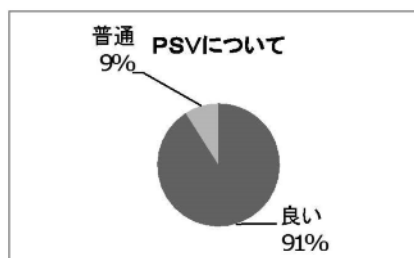
良い	8
普通	1
N/A	3
<b>総計</b>	<b>12</b>



- ・ 参加者との交流を図ることができてよかった。また元気になりました。
- ・ 様々な方とお話する良い機会となりました。
- ・ 先輩方と話すことで、いろいろな情報を聞いて大変勉強になった。
- ・ よかったです。

## 4. 午後の部「ピア・スーパービジョン」について

良い	10
普通	1
N/A	1
<b>総計</b>	<b>12</b>



- ・ 今日ブレイクの時間がいくつかあって、リラックスして参加することができた。今後も休憩の時間はいくつか設けた方が良くと思う。
- ・ 様々な職種の方のお話を聞き、いろいろな悩みの中でお仕事されていることがわかりました。こういった場で思いの共有が出来、勉強になりました。
- ・ 感じていることを吐き出す機会がなかったので、少しだけスッキリできました。
- ・ とても参考になりました。

## 5. 自由意見

- ・ 今回の古谷野先生の講演(研究トピック)をどのように活かしていくか。自分自身にとっても日々の仕事のなかでも活かしていくことができるようになることが大切なポイントになってくるように感じました。また参加します。ありがとうございました。
- ・ とてもあたたかい雰囲気よかったです。
- ・ ありがとうございました。
- ・ また励みにして次回も参加できれば嬉しいです。



## プログラム

2017年2月4日(土)10:00(受付 9:30)～15:30 終了予定  
聖学院大学 4号館 4階 4402 教室(第一会議室)

総合司会 山田裕太 SWnet

10:00～10:10 挨拶 牛津信忠 聖学院大学人間福祉学部人間福祉学科客員教授・前学部長

10:10～11:10 講演会

発題「ピアサポートとコミュニティインクルージョン  
ーアメリカの実践および研究からー」

発題者 相川 章子(あいかわ あやこ) 聖学院大学人間福祉学部人間福祉学科教授

11:10～11:15 休憩

11:15～12:00 鼎談「講演を受けて、日々の実践にてらして」

田中光太郎(107W063)・木下優輔(109W038)・長谷川瑞紀(113MW006)

コーディネーター 相川章子(発題者)

12:00～13:15 SWnet 主催 ランチ交流会 (参加の場合:実費 1,000 円程度)

13:15～15:20 ピア・スーパービジョン

13:15～13:30 導入 SWnet

13:30～14:45 グループ・ディスカッション

14:45～15:00 グループ発表(全体共有)

15:00～15:20 総まとめ 柏木 昭(聖学院大学名誉教授・総合研究所名誉教授・人間福祉スーパービジョンセンター顧問・社団法人日本精神保健福祉士協会名誉会長)

15:20～15:30 閉会 中村馨男 聖学院大学人間福祉学部特任教授・人間福祉スーパービジョンセンター長

### ♪ 懇親会

プログラム終了後、SWnet の企画による懇親会があります。

参加歓迎・会費別途

懇親会会場:「北海道」大宮店(大宮駅東口徒歩 1 分) TEL03-6161-5234

### ♪ 学生バス

お帰りのバスをご利用の際は、バス乗車券を運転手にお渡し下さい。

## 聖学院大学人間福祉スーパービジョンセンター主催・SWnet 共催 第19回ピア・スーパービジョン報告



上段：会場内の様子 下段：鼎談の様子と相川章子教授

2017年2月4日（土）、聖学院大学4号館第一・第二会議室を会場に、「第19回ピア・スーパービジョン」（聖学院大学人間福祉スーパービジョンセンター主催・SWnet「聖学院ウエルフェアネット―卒業生を中心とする福祉のネットワーク」共催）が行われた。開会の挨拶を、牛津信忠氏（聖学院大学人間福祉学部人間福祉学科客員教授・前学部長）が務められた。総合司会を、山田裕太氏（SWnet）が務められた。

第1部の講演は、相川章子氏（聖学院大学人間福祉学部人間福祉学科教授）が担当された。引き続き行われた鼎談は、「講演を受けて、日々の実践にてらして」と題しつつ、田中光太郎氏、木下優輔氏、長谷川瑞紀氏がパネラーを務められ、相川章子氏がコーディネーターを務められた。その後、ランチ交流会を挟み、午後はピア・スーパービジョンを行った。また、柏木昭氏（聖学院大学名誉教授、総合研究所名誉教授、人間福祉スーパービジョンセンター顧問、社団法人日本精神保健福祉士協会名誉会長）が、ピア・スーパービジョンの総まとめを行った。最後に、閉会の挨拶を中村磐男氏（聖学院大学人間福祉学部特任教授・人間福祉スーパー

ビジョンセンター長）が担当された。

相川氏の講演題は、「ピアサポートとコミュニティ・インクルージョン～アメリカの実践および研究から～」であった。

コミュニティ・インクルージョンの「インクルージョン」（包含）は、地域の一員として、積極的に課題を受容したり、また参与したりするような行動的な概念を意味する。ただ地域にいる（being）だけではなく、行う（doing）ことが、コミュニティ・インクルージョンの大切な姿勢である。

ピアサポートは、コミュニティ・インクルージョンを形成するための「架け橋」（F・マシュー）となるものである。ピアサポートは、「仲間同士の支え合いの営みすべて」であり、「対等な関係」として、互いのつながりを意識し、かつ再構築することによって成立する。

ピアサポートの構築は、「語り」が重要な位置を持つ。語りを通して、互いの経験が語られることによって、自らのマイナスの経験が、他の人を勇気づけるプラスの経験へと価値転換が起り得る。このような「経験の語り」によって一人一人のリカバリーストーリーが紡ぎ出される時、リカバリーが、別の次なるリカバリーを生んでいくことにもなる。このような経験の共有と支え合いのピアサポートが、コミュニティ・インクルージョンを阻む要因を持つような文化・社会の在り方を変え、人と人をつなげ、偏見・差別の障壁を取り除き、地域社会の一員として歓迎する文化を構築する架け橋になっていく。このように、ピアサポート体制の充実、新たな文化を構築していく可能性を持っているのである。日本におけるピアサポートの理解及びサービスの構築は、甚だ不十分であるが、社会にとって不可欠なものであることは間違いない。そしてソーシャルワーカーは、ピアサポート導入の最大の促進者になるべきである。

以上のように相川氏は、力強く主張された。相川氏は、2016年8月から半年間の特別研究期間の

ために、アメリカ・フィラデルフィアに滞在されたが、この講演を通して、現地での体験に基づいた研究成果を、パワーポイントを通してふんだんに提示しつつ、非常に内容豊かに報告をされた。

鼎談は相川氏がコーディネーターを務め、本学の卒業生である田中氏、木下氏及び長谷川氏が、現場の状況を踏まえ、講演に対するレスポンスを行った。お三方とも、聖学院大学を卒業し、社会福祉の分野の第一線で働かれている方々である。聴衆からの質問にも、実体験を通じた応答をしていたことが印象的であった。また、熱心に意見を述べられていた聴衆もあり、講演に感化された様子がうかがえた。なお、鼎談を通して、日本におけるピアサポートの体制が以前整えられておらず、多くの課題に満ちている現実もまた、共有されたように思われる。

第2部の「ピア・スーパービジョン」では、少人数のグループに分かれ、スーパービジョンを行った。実際のピア・スーパービジョンの内容は議論の性質上割愛させていただくが、自己紹介を交え、なごやかな雰囲気の中、一人一人が率直な意見を出しあうと共に、現場で働くソーシャルワーカーが、立場を超えて聞きあい、他者の意見を否定することなく共有することを重んじていた様子が印象的であった。

グループ発表の後、柏木昭氏（聖学院大学名誉教授、人間福祉スーパービジョンセンター顧問）が総括を語られた。その中で、柏木氏は、ピアの意味を考え、ピアグループを積極的に構築していくことの重要性を指摘された。クライアントを主体として認めない時、ピアはその意義を失う。クライアントの自由と責任を尊重するために、ピアがあり、そのための挑戦を忘れないでいただきたい、と語られた。

閉会の挨拶を中村磐男氏（聖学院大学人間福祉学部特任教授・人間福祉スーパービジョンセンター長）が担当され、19回も、ピア・スーパービジョンの研究会を続けることのできた意義を述べられた。

出席者30名（講師含む）。

（報告者：五十嵐 成見 [いからし・なるみ] 聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化科学研究科博士後期課程）

# 本

## 新刊のご案内

ご注文は出版会HP <http://www.seigpress.jp/> または、お近くの書店、Amazon.co.jpからお願いいたします。

### 魔女は真昼に夢を織る

松本祐子 著


2016年12月発行 2,300円（税別）

永遠は呪い、嘘は夢。いつわりの言葉があなたを魔法にかける  
『リユーンノールの庭』や『8分音符のプレリュード』の松本祐子が創作ファンタジーをあなたに。  
イラスト：佐竹美保

第I部：創作ファンタジー「魔女の森」、「氷姫」、「ガラスの靴」。  
第II部：論考とコラム。

お問い合わせ先

聖学院大学出版会 TEL:048-725-9801 FAX:048-725-0324  
URL:<http://www.seigpress.jp/>



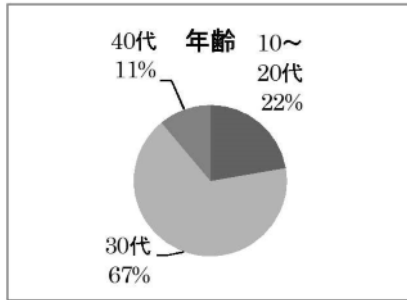
集計表 (グラフはN/A除く)

参加者は30名。内、アンケート回答者9名。

1.プロフィール

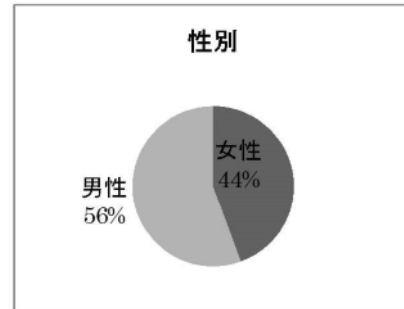
年齢

10～20代	2
30代	6
40代	1
<b>総計</b>	<b>9</b>



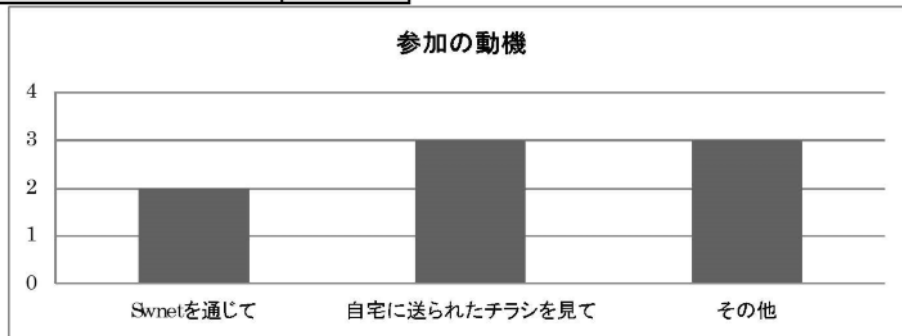
性別

女性	4
男性	5
<b>総計</b>	<b>9</b>



参加の動機

Swnetを通じて	2
自宅に送られたチラシを見て	3
その他	3
N/A	1
<b>総計</b>	<b>9</b>



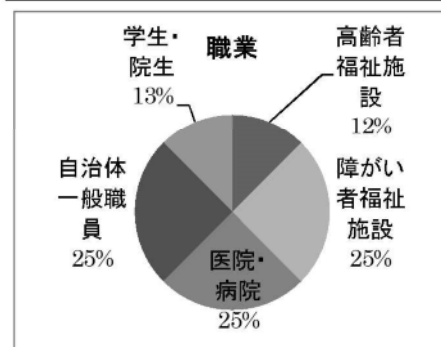
現在、聖学院大学の学部生ですか？

いいえ	9
<b>総計</b>	<b>9</b>



職業

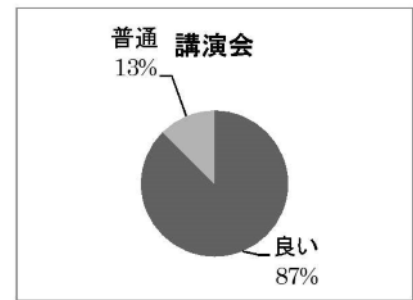
高齢者福祉施設	1
障がい者福祉施設	2
医院・病院	2
自治体一般職員	2
学生・院生	1
N/A	1
<b>総計</b>	<b>9</b>





**2.午前の部 講演会「ピアサポートとコミュニティインクルージョン  
—アメリカの実践および研究から—」について**

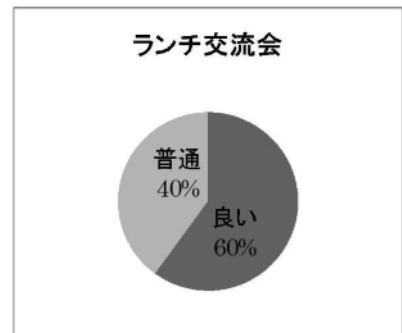
良い	7
普通	1
N/A	1
<b>総計</b>	<b>9</b>



- ・大変おもしろかったです。
- ・対等な関係を意識することがたいせつだと感じました。
- ・同じ悩みや生き辛さを抱えている人同士の分かち合い、大切だと感じました。
- ・すごく希望をもらいました。くもっていたものが晴れた気がします。
- ・難しい内容をわかりやすく話し下さり、大変わかりやすかったです。声のトーンもスピードもとてもよかったです。パワポも可愛かった。

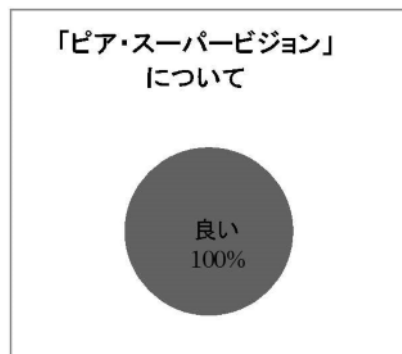
**3.ランチ交流会**

良い	3
普通	2
N/A	4
<b>総計</b>	<b>9</b>



**4.午後の部「ピアスーパービジョン」について**

良い	5
N/A	4
<b>総計</b>	<b>9</b>



- ・柏木先生のコメントがとても良かったです。
- ・日頃聞けないことを話し合えた。

**5.その他のご意見やご希望など**

- ・ぜひ、また参加したいです。
- ・色々な職種の方と関わりが持てる良い機会であった。今後もぜひ参加させていただきたいです。